

(別添資料1)

事業所名

あっとほーむ見附

支援プログラム（参考様式）

作成日

8 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		・障害の種類、度合いに限らず、ひとりひとりの特性に合わせた支援を心がけてほめて伸ばし、できたことへの充実感や喜びを感じてもらいながら自己肯定感を高めます。スモールステップで子どもたちの成長を促すことで、将来のための可能性を広げていけるようお手伝いができればとの思いをもっています。自ら「行きたい」と言ってくれる居心地の良い楽しい場所で楽しみながら療育を受け、子ども達だけではなく保護者の方も安心して預けることができる施設を目指しています。					
支援方針		・どんな障害があっても、子ども達には幸せに生きる権利があります。こどもたち一人一人の特性や個性を理解し受け止め、必要な療育やサポートをおこなっていきます。安心して居心地よく過ごせる施設、オープンな施設を目指していきます。					
営業時間		平日 長期休み、土曜日	14 9 時	18 分から 16 時	分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	・生活リズムの安定・定期的な心身の把握（検温実施）・絵カードや写真を用いて視覚的、具体的な表示をします。・タイマーや時計の活用をし、始まりやおしまいがわかりやすい環境作り ・片付け場所の明確化・SST活動による心身的、社会的訓練・排泄介助、食事介助など必要に応じた支援・車の乗り降りなどの安全確認・感染予防対策として、消毒や換気の実施 ・コップ洗い、机拭きなどの身の周りのできることを増やし、生活力の向上を目指します。・食事のマナーの習得、お箸の持ち方・物や名前の認識					
	運動・感覚	・ストレッチなどの軽い運動・バランスボールでの姿勢維持・ドッチボールなどのルールのある集団遊び・音楽に合わせて歩く、走るなどの基本動作・リクエスト曲などでのダンス ・イヤーマフの配備・縄跳びなどの跳が、くぐるなどの道具を使った運動 散歩などの室外活動・指先を使った作業（ひも通し、ビーズ通しなど）・粘土やスライムなどの感覚遊び ・サーキットなど運動の組み合わせたものを順番でおこないます。・トランポリンなどの遊具の提供					
	認知・行動	・天気、日付、季節などの認識、把握・数、平仮名、カタカナなどや宿題、課題の取り組み、鉛筆やペンの持ち方、書き方・1日のスケジュールの確認、時間の周知・小集団でおこなうミニゲームなどでの適切な行動形成・物の使い方、扱いかた、物を大事にすること・声の大きさの調整、相手が小さいお友だちの場合の力加減・イライラした時の対処方法、気持ちの静め方など					
	言語 コミュニケーション	・ボランティアさんとの交流・読み書きの提供、言語訓練 サイン、ジェスチャー手話でのコミュニケーション力の向上、タブレットの活用（文字のやりとり） ・場面に応じたあいさつ（ただいま、いただきます、さようなら、ありがとうなど） ・些細なことであっても子どもの話を傾聴する ・始まりの会、帰りの会などでの気持ちや意思を言葉で表出、受容、称賛する ・お友だちとの玩具の貸し借りや仲間に入れてなどのやりとり ・具体的な伝え方、言い方などを手本で示し、相手に伝える。					
	人間関係 社会性	・乗り物や公共での過ごし方等の体験・ルールの理解が必要な遊びや活動・公民館、公園、施設などイベントを通じた地域交流・見立て遊び、ごっこ遊び、一人遊びなどができる玩具や場所の確保及び発展的な子ども同士での遊び ・買い物の仕方、お金の支払い、計算、簡単なおやつや昼食作り ・お友だちや職員との関わり、お話しタイム ・場面にあった行動（周囲を見て行動する） ・玩具の貸し借りができ、仲良く遊ぶ。					
家族支援		・親子関係や家庭内を安定、充実できるようにいつでも相談できる体制作り ・関係機関と連携をし、特性や年齢などを含めトータルサポートをしていきます。			移行支援		・児童クラブ、日中一時、自治会など顔の見える関係作り ・就労を視野に入れた作業活動の充実、社会体験できる機会を作ります。
地域支援・地域連携		・地域の事業所に対する理解の増進、地域住民の方からの見守り、また、交流できる場を設けていきます。公民館、公園などの活用による交流などを深めていきます。			職員の質の向上		・社内研修、社外研修を合わせ、年間4回勉強会の実施 ・毎月の定例会議、ケース会議、ケア会議などの実施 ・定期的な職員の面談、慰労会
主な行事等		・夏まつり、クリスマス会、七夕、ハロウィン、節分、お花見、外食行事、親子スポーツ大会、社会体験日など。					